<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	生活安全部

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【重点】犯罪抑止対策の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	刑法犯認知件数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	9,544	9,362	9,180	9,000
現況値	9,230件/年	実績値	10,267			
目標値	9,000件/年	達成率(%)	93.0			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・地域の情勢に応じた犯罪抑止対策の推進
・防犯ボランティア等との連携強化
・子供・女性・高齢者等の安全を確保するための対策の推進
・国際化支援・広報活動事業
・犯罪被害者等見舞金給付事業
・アプリによる警察情報発信高度化事業

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

刑法犯認知件数は2022年から4年連続で増加しており、2025年は8年ぶりに1万件を超えるなど目標の達成には至らなかった。
一方、刑法犯の約7割を占める窃盗犯の多くが「無施錠・無締り」を狙った犯行であることを踏まえ、鍵かけを呼び掛けるキャラクターとキャッチフレーズを活用し、「防犯の基本は鍵かけ」であることを集中的・継続的に広報するなど、鍵かけの徹底に向けた対策を推進した結果、空き巣など一部の手口において、無施錠による被害が減少した。

6 今後の施策推進に向けての課題

窃盗犯のうち、鍵かけによる被害防止が可能な自転車盗等の乗り物盗や空き巣等の侵入窃盗が半数以上を占めていることから、今後も継続して「鍵かけ」の徹底を県民に広く呼び掛けるとともに、防犯情報配信アプリ「ハレノポリス」をはじめとする各種広報媒体を活用して、犯罪情勢の分析に基づいた効果的な防犯情報をタイムリーに発信し、県民の自主防犯意識の向上を図る必要がある。
また、防犯ボランティア、自治体、民間企業等と連携・協働した防犯対策を一層推進するとともに、街頭防犯カメラの設置促進など、防犯設備の充実を支援し、犯罪の起きにくい環境整備を推進する必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	刑事部

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【重点】捜査の高度化・科学化等の推進による犯罪の徹底検挙

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	殺人、強盗等の重要犯罪検挙率	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	99.1%	実績値	103.3			
目標値	100.0%	達成率（%）	103.3			
備考		達成度	5			

3 関連する事業名

・重要犯罪等の徹底検挙に向けた捜査基盤の高度化事業
・匿名・流動型犯罪グループ等の徹底検挙に向けた捜査基盤の高度化事業

4 施策達成レベル

5.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

事件認知時の初動捜査を徹底するとともに、各種システムを活用したプロファイリング等による犯罪関連情報の分析、DNA型鑑定等の科学技術の活用、最新の機器を活用した防犯カメラ画像の解析等を推進し、玉野市宇野地内発生の貴金属買取店における強盗事件、岡山市北区奉還町地内発生の貴金属買取店における強盗事件、久米郡美咲町打穴里地内における非現住建造物等放火・詐欺未遂事件等を検挙した結果、2025年中の重要犯罪検挙率は103.3%と高水準を維持するとともに、目標を達成することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

今後も重要犯罪検挙率100%を達成するため、事案発生時には初動捜査を徹底するとともに綿密な鑑識活動を行い、犯人の特定に資する客観証拠の迅速な確保に努めるほか、各種カメラ及びシステムを活用したプロファイリング等による犯罪関連情報の分析や画像解析技術等を駆使した捜査の高度化、DNA型鑑定等をはじめとする捜査の科学化を一層推進する必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	交通部

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【重点】交通事故防止対策の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	人身交通事故件数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	5,000	4,830	4,665	4,500
現況値	5,161件/年	実績値	4,681			
目標値	4,500件/年	達成率(%)	106.8			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・ライフステージに応じた交通安全教育の推進
・交通実態等を踏まえた交通指導取締りの推進
・安全・安心で人にやさしい交通環境の整備
・自転車利用者のルール遵守に向けた交通安全教育事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

交通事故分析に基づいた各種交通事故抑止活動の推進により、2025年中の交通事故死者数は41人と、交通事故統計を取り始めた1948年以降最少を記録したほか、人身交通事故件数も前年より188件減少し、目標を達成することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

県民の更なる交通安全意識の向上に向け、県警察ホームページ、防犯情報配信アプリ「ハレノポリス」、SNS等を活用したタイムリーな情報発信を行うとともに、講習等の機会を活用した各年代に応じた交通安全教室を推進する必要がある。
また、本年4月から開始された自転車に対する交通反則通告制度の適用を踏まえ、自転車の安全利用やヘルメットの着用促進に向けた取組を推進するほか、交通死亡事故抑止対策として、全ての座席でのシートベルト着用に向けた広報啓発、横断歩行者等妨害等違反に重点を置いた交通指導取締り等を推進する必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	生活安全部

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】特殊詐欺等対策の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	特殊詐欺の認知件数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	170	160	150	140
現況値	182件/年	実績値	345			
目標値	140件/年	達成率(%)	49.3			
備考		達成度	1			

指標名	SNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	140	140	140	140
現況値	-	実績値	194			
目標値	140件/年	達成率(%)	72.2			
備考		達成度	2			

3 関連する事業名

・幅広い年齢層に対する被害防止広報の徹底
・金融機関等と連携した水際対策の推進
・身近な人を守る気運の醸成に向けた取組の推進
・消費者教育啓発促進事業
・SNS型投資・ロマンス詐欺等被害防止対策事業

4 施策達成レベル

1.5	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

固定電話だけでなく、携帯電話への着信やSNSを入口とした手口が増加し、スマートフォンを利用する幅広い世代が標的となったことで、若年層の被害が増加したほか、社会全体の投資熱の高まりを背景として、うその投資話に誘導する詐欺が多発したことなどが要因となり、目標の達成には至らなかった。
一方、「だまされんのじゃ特殊詐欺」県民運動を展開する中で、防犯情報配信アプリ「ハレノポリス」等を活用した広報啓発を推進し、身近な人を守る気運の醸成を図った結果、金融機関や家族・親族等による声掛け・通報につながり、年間364件、約2億520万円の被害を未然に防止することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

被害者層は、高齢者に限らず若年層を含む幅広い世代に拡大しているほか、国際電話番号からの着信や、携帯電話・SNSを介した接触の増加など、被害の特徴も変化していることから、これらの実態を子細に分析した上で、引き続き、幅広い年齢層に対する効果的かつ具体的な被害防止広報を徹底する必要がある。
また、金融機関やコンビニエンスストア等と連携した水際対策、身近な人を守る気運の醸成に向けた取組を継続して推進するとともに、「人はだまされるもの」との心理学的視点に立ち、防犯機能付き電話の導入や留守番電話機能の活用のほか、国際電話の利用休止申請、警察庁推奨詐欺対策アプリの利用促進など、犯人との接点を遮断する取組に重点を置いた対策を推進していく必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

		担当部課室	生活安全部
重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【推進】サイバー空間の安全確保に向けた取組の推進		

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	サイバー犯罪被害防止セミナーの受講者数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	3,400	3,400	3,400	3,400
現況値	1,993人/年	実績値	3,663			
目標値	3,400人/年	達成率（%）	107.7			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・サイバーセキュリティ意識向上対策の推進
・サイバー犯罪に対する取締りの推進

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

2025年中は「サイバー犯罪体験型コンテンツ」を活用したセミナー等を、企業や地域の会合等を対象に幅広く実施し、効果的な広報啓発活動を推進した結果、目標を達成することができた。
セミナー参加者からは「実際にサイバー犯罪の被害に遭うとどうなるのか、目で見てよく分かった。」、「自社のセキュリティ対策状況を見直す必要があると思った。」、「社員に向けたセミナーを開催してほしい。」などの声が寄せられ好評であったほか、県民のサイバーセキュリティ意識向上に向けた気運を高めることができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

県民のサイバーセキュリティ意識向上のため、引き続き、「サイバー犯罪体験型コンテンツ」を活用したセミナーを継続的に開催するとともに、最新のサイバー犯罪の手口や対策、機器の脆弱性を狙った手法を分かりやすく説明するなどして、サイバー犯罪被害の防止に努めていく必要がある。
また、サイバー犯罪の手口は日々進化していることから、体験型コンテンツの内容について、アップデートを図っていく必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	くらし安全安心課

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】消費者被害の防止等の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	消費者啓発セミナー等の受講者数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	6,000	6,000	6,000	6,000
現況値	5,205人/年	実績値	7,077			
目標値	6,000人/年	達成率（%）	118.0			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・消費者施策推進事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

デジタル化の急速な進展により、インターネット取引の拡大、キャッシュレス決済の普及、グローバル化の進展等、消費者を取り巻く環境は年々大きく変化し、消費者問題が複雑・多様化し、年齢や消費生活に関する知識の有無、経済状況等に関わりなく、すべての消費者がトラブルにあう可能性が高まっている。
県消費生活センター等では、ライフステージ等に合わせて状況に応じた内容のセミナーを各種準備し、HPやチラシ・パンフレット等で県内に広くPRや啓発することにより、消費者問題に関心の高い県民の受講需要にこたえている。
また、県消費生活センターに設置の消費者教育コーディネーターを中心に、啓発アウトリーチ活動を通じて、民生委員や大学生等が連携し、高齢者宅を訪問することにより、悪質な訪問販売事例等の注意喚起を行った。

6 今後の施策推進に向けての課題

令和8年3月に第5次岡山県消費生活基本計画を策定し、ライフステージに応じた消費者教育の実施を重点施策として位置づけた。年齢、性別、障害の有無のほか、消費生活に関する知識の量や情報通信機器の利用状況などの消費者の特性に配慮しつつ、生涯を通じて、それぞれのライフステージに応じた学びの機会を提供できるよう取り組む。

＜様式2＞

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	生活安全部

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】少年非行防止対策の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	小・中・高等学校（義務教育学校、中等教育学校を含む）における非行防止教室の実施率	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	100.0%	実績値	100.0			
目標値	100.0%	達成率（%）	100.0			
備考		達成度	5			

指標名	少年人口（10～19歳）1千人当たりに占める刑法犯少年の割合（非行率）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	2.8	2.7	2.6	2.5
現況値	2.8人	実績値	4.2			
目標値	2.5人	達成率（%）	66.7			
備考		達成度	2			

3 関連する事業名

・「心と命の教育活動」の推進
・規範意識向上、再非行防止対策の推進
・子供の非行・犯罪被害防止対策の推進
・少年健全育成推進事業

4 施策達成レベル

3.5	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

健全育成対策室を中心に、非行防止教室を100%実施し、目標を達成するなど、少年の規範意識の向上に資する取組を推進した。
刑法犯少年の割合（非行率）については、刑法犯少年が全国的に増加傾向にある中、当県においても2022年から4年連続で刑法犯少年が増えており、目標の達成には至らなかった。

6 今後の施策推進に向けての課題

刑法犯少年数の増加に歯止めをかけるべく、今後も継続して学校等やボランティアと連携し、非行防止教室等をはじめとした少年が非行に走らない判断をするための取組の推進、「自転車鍵かけコンテスト」、「SNS広報用動画コンテスト」等の少年の規範意識向上に資する施策の推進、SNS等による情報発信や街頭の電光掲示板等を活用した広報啓発等、各年齢層の少年に応じた効果的な施策を推進する必要がある。

＜様式2＞

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	刑事部

重点戦略	Ⅳ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】暴力団をはじめとする組織犯罪対策の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	暴力団対策法等の適用件数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	8	8	8	8
現況値	6件/年	実績値	5			
目標値	8件/年	達成率（%）	62.5			
備考		達成度	2			

3 関連する事業名

・拳銃・特殊犯罪対策の推進
・暴力団排除活動推進事業
・暴力団離脱者就労受入企業に対する損害補償事業

4 施策達成レベル

2.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

池田組と六代目山口組を特定抗争指定暴力団等に指定し、警戒区域の設定を継続することで、その活動を制限させている中、暴力団対策法を適用し、指定暴力団の威力を示して、みだりに金品等の贈与を要求した暴力団幹部に対して中止命令を2件、対立抗争事件で服役していた暴力団幹部に対して賞揚等禁止命令を1件発出した。
また、犯罪収益を隠匿するなどした暴力団関係者による組織的犯罪処罰法違反を2件検挙したものの、目標の達成には至らなかった。

6 今後の施策推進に向けての課題

対立抗争中の暴力団は、警戒区域を指定されていることで活動が制限されているため、取締りを警戒し、構成員による暴力的要求行為を潜在化させている可能性や匿名・流動型犯罪グループ等を巧みに利用した資金獲得活動を行っている可能性がある。
引き続き、各団体の更なる実態解明の推進による暴力的要求行為のあぶり出しや、匿名・流動型犯罪グループ等の摘発による暴力団への資金供給ルートの解明・遮断に取り組んでいくとともに、暴力団構成員の摘発に併せて、暴力団対策法等の積極的な適用を推進していくことで、暴力団の壊滅・弱体化を図り、県民の安全・安心を確保していく必要がある。